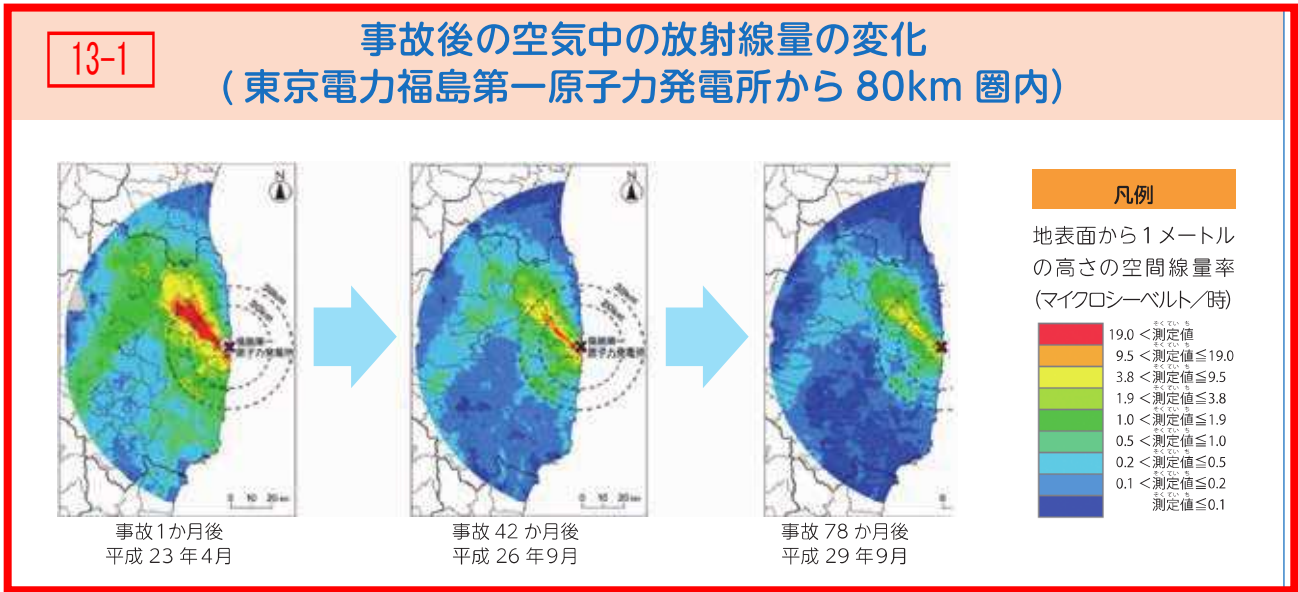




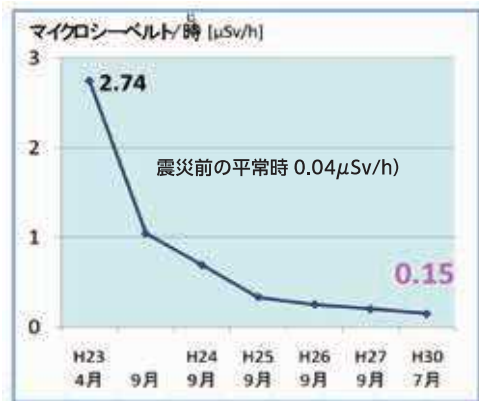
### (2) 放射性物質の放出と事故後の放射線量の変化

次の図は、航空機を用いて測定した地表面から1mの高さの空間線量率（単位時間あたりの線量）の推移です。事故後、時間が経つにつれ、空間線量率が下がっていく様子が分かります。福島県内の空間線量率は事故後7年で大幅に低下しており、今では福島第一原子力発電所の直近以外は国内や海外の主要都市とほぼ同水準になっています。



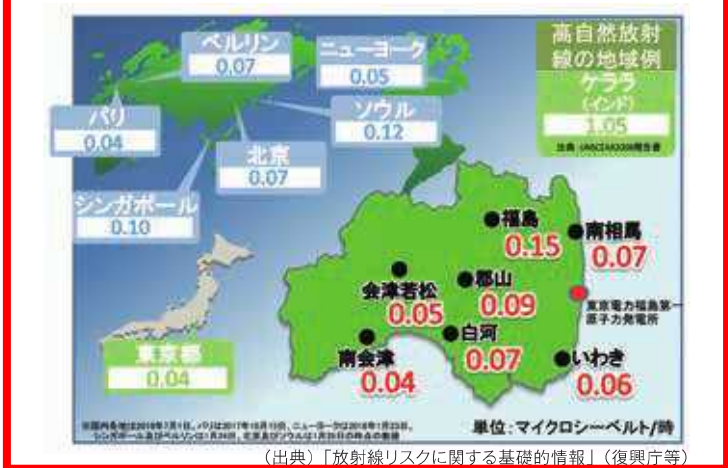
(出典)「福島県及びその近隣県における航空機モニタリングの測定結果について」(平成30年2月原子力規制委員会)より作成

### 福島市の空間線量率の推移



【出典】福島県災害対策本部(暫定値)  
(出典)ふくしま復興のあゆみ<第23版>(平成30年8月福島県)

### 現在の福島県内各地と世界の放射線の量の比較



(出典)「放射線リスクに関する基礎的情報」(復興庁等)

### (3) 住民の避難と帰還 **13-3**

事故発生後、周辺地域の住民の安全や健康を確保するため、国は住民に対して避難を指示しました。地震・津波や事故による、避難を指示した区域(避難指示区域)などからの避難者数は、ピーク時(平成24年6月)は約16万5千人に達しました。平成30年7月現在、避難指示区域などからの避難者数は、約4万4千人となっています。

住民の中には、仕事や学校の都合で家族が離れ離れに生活しなければならない人や、家族や地域の結びつきがゆらいでしまった人、仕事を失った人、放射線などの健康影響に不安を感じた人がたくさんいます。なかには、心の病気にかかった人もいます。

**13-6**

**13-5**

**13-4**

**13-2**